

安保法廃止女性ら訴え

JR富山駅前で街頭行動



「誰の子どもも殺させない」と安全保障関連法の廃止を訴える女性ら＝26日、JR富山駅前

安全保障関連法の廃止を訴えようと、市民らが二十六日、JR富山駅前で街頭行動を繰り広げた。

女性会議県本部などでつくる市民団体「女性のレックドアクション」とや実行委員会」が呼び掛け、男女七十五人が参加。「許しませぬ戦争法」「こわすな！

憲法9条」と書いた横断幕やプラカードを掲げ「戦争反対」「誰の子どもも殺させない」と訴えた。

呼び掛け人の一人、富山市の無職宇治谷明美さん(56)は「先の大戦では女性に参政権がなかったが、今ではある。責任を持ち、何としても子どもらへ平和な社

会を残したい」と話した。市民団体「秘密法廃止市民ネットとやま」も駅前です。「戦争は秘密から始まる。特定秘密保護法と安保関連法は一体で、戦争に向かう車の両輪。いずれも憲法違反の法律で無効」と記した抗議声明のチラシを配った。(伊勢村優樹)

TPP重大局面に

アトランタ首席官交渉始まる

5月から4月に及んだ安保法審議会は、審議が進むほど政府答弁のいい加減さが露呈して国民の反対の声が高まり、安倍晋三首相自身が「国民の理解を得ていない」と認めざるを得ない状況であるにもかかわらず、最後は乱暴きわまりない強行採決で決着した。

米国の至上命令 安倍政権がなぜこれほどまでに国会と国民をないがしろにして強行突破を謀るのかと言えは、それが米国内(と言っても主として「ジャパン・ハンドラー」と呼ばれる対日工作チーム)の至る命令だからである。参院審議の中で、生活の

安倍政権の暴走

次はTPP押し通す

論点



ジャーナリスト 高野 孟

たかの、はじめ、1941年東京生まれ。早稲田大学卒業。通信社、広告会社に勤務。75年にフリージャーナリストに。80年に情報誌「ファンサイト」の代表編集長。2008年アロクサイト「ザ・ジャーナル」を創刊し主宰。『高野孟のザ・ジャーナル』を自刊配信中。

がマイケル・グリー・ハリス IS副理事長である。第2次政権が発足して間もない13年2月に訪米した安倍は、ジョージタウン大学で演説し、そのジャパン・ハンドラー3人を目の前にして彼らが書いた「レポート」に軸を「アミーテツ

党の山本太郎議員は2011年再稼働に至るまで、全て「ミテツ」元副議長と2年夏に発表された「第3次アミーテツ・ナイ・リポート」を探り上げ、安倍政権が進めてきた秘密保護法、集団的自衛権解禁のための安保法制のみならず原代表格は、リチャード・ア

- 10月5(月)・5役会議 幹事会 (18:00 自治学芸館)
- 7(水)・青年女性労働講座 (今回は公開講座です 誰れでも参加できます) 講師 吉田佳(元国労本報書記) 演題 労働組合運動と政治的闘争 (18:30 自治学芸館) 参加費 500円
- 10(土)・公共交通富山ネット 定期総会 13:00 自治学芸館
- 11(日)・七ヶ谷がこまごま 14:00 ショッピング 15:00 市民会館 16:00 市民会館 17:00 市民会館